

『第6次計画男女共同参画基本計画策定にあたっての基本的な考え方(案)』への

コメント

白波瀬佐和子

○93 ページ3つ目事項における修正案に対して、地元を離れる理由として進学に伴う転出があり、その対策として女子学生が地元に残るような大学づくりの推進が掲げられている。しかし、各地域の魅力ある大学づくりと女子学生進学向上とは、同時決定的ではなく、両者の連携をどう展開するかは、教育行政の観点からももう少し慎重に記述するのが望ましい。ここで指摘されるとおり、都道府県別の女子進学率は異なり、その違いは男子の都道府県別進学率の場合より大きい。その背景には、女子学生進学に対する期待や望ましさが男子学生とは依然少なからず異なる、という背景が考えられる。女子学生にとって魅力ある大学には、地元女子生徒のみならず県外からの進学も促されることが期待できるので、地元に残ることを想定した議論とはずれてくる。そこで、以下のような文章にとどめるというのはいかがなものか。

原案「各都道府県の女性の大学進学率の差も見られるところ、性別を理由に進学を断念することがないように、進学しやすい環境を整備することが重要である。また、進学に際して、出身地域を離れるケースが多い現状を踏まえ、各地域の魅力ある大学づくりを推進することも重要である。」

修正案「地域における保守的な役割期待は、女子や女性たちの潜在的な能力を發揮する上に否定的な効果を及ぼしうる。そこで、性別によって進学や専攻分野の選択が限定されることがないように、各地域の特色を活かし、性別にかかわらず積極的な大学教育プログラムを展開することは、地域の女性活躍を促す上に有益である。」

○同じく93ページの2つ目事項、2行目の「女性の視点を取り入れやすくすることも重要である」というところ、「女性に代表される少数派の視点」とするのはどうか。